

北登会会報 令和3年



R3.8.4 北アルプス白馬岳山頂にて

会長あいさつ

高林 宏（25回）



先日、新聞に高田直樹著「なんで山登るねん」が紹介されていましたので、懐かしく再読してみました。これは高田氏が京都府立大学山岳部時代のことを書いたものですが、私の大学生時代に「山と溪谷」に連載されていたので、懐かしく思い出されました。

これ以前の「山と溪谷」には本多勝一著「愉しかりし山」や新田次郎著「孤高の人」などが連載されていました。これらは高校生時代、北高山岳部の部室で読んだ記憶があります。

北登会の活動としては現役に対しクライミングウォールのメンテナンス費用や登山用具、山行への同行など支援していますが、今年は山岳技術図書の寄贈もさせて頂きました。今後も現役の活動を支援してまいりますので、引き続き会へのご協力をよろしくお願い致します。（8/13 寄稿）

北高山岳部活動状況

浜松北高等学校山岳部

顧問 佐々木 努



北登会の先輩諸氏には、日ごろから山岳部の活動に御理解と御支援を賜り感謝申し上げます。

昨年度はクライミングウォール改修費用の大半を援助していただきました。10aから10c-dの4本のルートを設定しましたので、先輩諸氏にも御利用いただければと思います。感謝申し上げます。

令和3年度は1年生17人（男子11人、女子6人）、2年生20人（男子14人、女子6人）、3年生16人（男子10人、女子6人）の53人の大所帯になりました。指導上、男女合わせて1学年12人程度が精一杯なのですが、このところ入部希望者が20人を超え、セレクションを行って目一杯取りました。5月4～5日に実施した1年生新歓・3年生引退山行（湖西連山、おちばの里）では、北高テント村ができました。

・大会等成績と昨年度の活動

昨年度はコロナ禍で高校総体県大会自体が実施できず、クライミング部門も不参加でした。山行は、8月に3年生の引退兼新入生歓迎登山登山（毛無山 富士宮）が行え、9月に山小屋泊まりで妙高山に行きました。12月のスキー合宿以降、コロナ禍のため4月の1次予選大会まで登山が行えない状況が続きました。昨年にも増して新型コロナの影響が懸念される今年度ですが、1日の日程で行われた

北登会ホームページアドレス

<http://www.hokutokai.sakura.ne.jp/>

5月29日の高校総体県大会では、準備不足と顧問の指導が足りずに残念な結果になりました。男子：69.4点（13チーム中10位）。女子：70.1点（10チーム中8位）。選手は今回の反省点を生かして来年度（湖西連山）に備えるつもりです。

・山行報告

6月は富士山（水が塚から宝永山）、7月は八高山、2日にわたる秋葉山の歩荷山行を経て、学校長の判断でなんとか実施できた2年ぶりの夏山合宿（白馬三山と朝日岳）を終え、本年度の登山計画もほぼ半分を消化しました。天候に恵まれた夏山でしたが、思った以上に体力的に厳しい登山になりました。また、下山日などは時間の読みが甘く、11時に下山できるかと思っていましたが、12時半になりました。午後2時くらいの下山にしておけば、生徒ももっと楽に行動できただろうと反省しています。夏山合宿の詳細は生徒の文章を御覧ください。静岡県にも蔓延防止措置が発令される一方、お祭り騒ぎのオリンピックが幕を閉じようとしています。私たちが望むのは普通に生活をおくり、登山もできる日常の回復でしかありません。どうか北登会の先輩諸氏におかれましても達者でいらっしゃるようにと祈らずにはおれません。（8/13投稿）

新人山行(湖西連峰)の感想

1年新村蒼太

私は初めての山行で自分の視野の狭さを感じました。1日目の登山では予想以上に荷物が重く、ずっと下を向いていたので楽しむ余裕がありませんでした。先輩方は途中でしりとりをしたり、歌を歌ったりと山登りを楽しんでいました。自分の体力のなさを実感し、山を楽しむためにも体力作りは必須だと思いました。体力があれば視野を広く持って山を楽しめると感じました。「山登りを楽しむ」という目標に向けて平日に行う歩荷や校舎周りの走り込みに力を入れていきたいです。また、先生は「実際に山に登ることが一番のトレーニングになる」とおっしゃっていました。そのことから山行には出来るだけ参加し、山の中で成長していくということを心掛けたいと思いました。そして、山行から毎回新しい発見や学びを得ることを念頭において、山行を無駄にしないようにしたいと思います。

1回目にして、先輩から学ぶことは沢山ありました。テント設営のコツや体温調節の大切さなどです。引退してしまう3年生からは、培ってきた炊飯の極意を教えてくださいたくとも出来ました。自分が知らなかった世界が開けていくような感覚には心が躍りました。

また、山岳部の暖かさにも触れることができたと思います。先輩方にはクラスメイトとは異なる信頼関係が見受けられました。自分は人と接することがあまり得意ではなのですが、そういった距離感に憧れを感じました。今後の活動を通して心身ともに成長するとともに、人との関わりも大切にしていきたいです。

1年植田有輝

先日、湖西連峰に行かせていただきましたが、想像以上にたいへんなものでした。ぼくはあまり登山の経験がなく、山登りがどれほどきついものかをまだ知りませんでした。実際に登ってみると、ゴツゴツとした岩や滑り

やすい土など体力を奪ってくる場所が多くあり、それだけで20キロ以上あるであろうメインザックを背負っていくため、正直とてもきつかったです。しかし、山の頂上に登った時の感動は言葉にならない感じでした。またおちばの里に到着して炊事なども経験しました。自然の中で食べるハヤシライスは格別でした。一発芸披露会のようなものは各々が持ち寄った芸を披露してとても盛り上がりましたし、楽しかったです。とても疲れましたし、辛いこともありました但帰ってきて改めて考えるととても楽しい思い出でした。これからも様々な山に登り、この感動を味わっていききたいというふうに思っています。本当に良い思い出でした。これからもよろしくお願いします。

北高山岳部のR3年度活動予定

3/28-29	湖西連峰	1～2年生
4/18	県一次予選（湖西連峰）	2年生
5/4-5	新人歓迎登山（湖西連峰）	1～3年生
5/9	校外練習（愛鷹山）	1～2年生
5/22	校外練習（愛鷹山）	1～2年希望者
5/29-30	県2次予選（愛鷹山）	選手
6/12-13	6月月例山行（宇連山）	1～2年生
6/19-21	東海総体（三重県） 高畑山、羽黒山	選手
7/10	歩荷訓練（八高山）	1～2年生
7/25	歩荷幕営訓練（秋葉山）	1～2年生
8/2-5	夏山合宿(北ア白馬岳)	1～2年生
8/26	8月月例山行 太田川源流沢登り	1～2年生
9/20-21	9月例山行 南ア 仙丈ヶ岳	1～2年生
9/23	高校生クライミングコンテスト①	選手
10/2-3	校外練習(湖西連峰) 幕営植生	1年生
10/24	新人大会（富士山）	1～2年生
11/3	高校生クライミングコンテスト	選手
11/7	競技力向上大会（湖西連山）	選手
12/4	12月月例山行奥三河の山	1～2年生
12/12	竜爪山競技会（歩荷大会）	選手+1～2年
12/22-24	スキー合宿（新潟妙高）	希望者
1/15	歩荷大会（湖西連峰）	1～2年生
1～2月	救急法講習会	日体高
2/11	ボルダリング大会静岡市	選手
3/21-23	スキー合宿予備日	
3/27-28	校外練習（湖西連峰）	1～2年生

夏山合宿の感想





2年 鈴木豪太（部長）

僕ら2年生にとっては、最初で最後の夏山合宿。昨年は新型コロナウイルス感染症のために中止。夢にまでみた夏山合宿。未経験な僕達が未経験な後輩達を率いる3泊4日の北アルプス縦走。出発前夜、かなり早く布団に入るが、無事下山できるのかという不安と楽しみによる興奮が入り混じり眠れなかった。

果てしなく続く稜線、生まれて初めて雪渓に足を踏み入れた。疲れた体を雷鳥が癒してくれた。3日目の朝、テント場を出発し白馬岳山頂を午前6時ごろ制覇。その時僕の眼に映った景色に自然と笑みがこぼれた。それは、青・蒼・藍・・・あおのグラデーションの美しい空と朝日を浴び陰影を美しく纏った北アルプスの山々、日本海に突出した能登半島、そして富士山だった。呼吸を忘れてしまうほどの美しい光景は、山岳部に入部してから今日までコロナ禍で山行に自粛がかかる日々、耐えに耐えて練習に励んだ僕へ山の神が褒美をくれたのだ、山が僕を受け入れてくれたのだと思った。だが、この直後から翌日にかけて雪倉岳、朝日岳、蓮華温泉へとゴールへ続く行程には急下降や激しいアップダウンが僕を襲った。歩行時間は、一日7から8時間。あんなに歩荷訓練に励んでいた僕でさえ次の一歩が重たくて倒れるかと思った。こうして部員全員が無事に下山できたわけだが、それは一重に顧問の佐々木先生、柴田先生、そしてサポートに駆けつけてくださったOBの大学生の先輩方3人のお陰だ。OBの方からは登山を通じて人として多くの事を学ばせて頂いた。消えかけていた北高山岳部の伝統に光が差した。この体で感じた空の色、風の匂い・・・すべてが僕のものとなった。

2年 坂井 那緒（副部長）

私が夏山合宿を通して学んだことは2つあります。1つ目は努力の大切さです。4日間歩き続けることは私にとって初めての経験でした。途中で心が折れそうになることもありました。しかし、合宿後の達成感は忘れることができません。そして、この夏山合宿は今までの人生の中で1番頑張ったことだと胸を張って言うことができます。前を見て歩き続ければ、目的地に必ず着く。努力する上で最も大切なことを学ぶことができました。

2つ目は仲間の大切さです。心が折れそうになった時、仲間の存在に何度も救われました。もし仲間がいなかったら途中で諦めていたかもしれません。夏山合宿のおかげで自分の周りにいる人を大切にしようと改めて思うことができました。

最後に私たちの活動を支えてくださる先生方、先輩方、そして両親に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

2年 山下夢叶

今思えば夏山合宿は、夕日の陽を反射して輝くダイヤモンドのようだ。空気は綺麗で、山は雄大で、すべての景色が壮大で、雪渓あり、岩場あり、山でしか味わえないものを存分に堪能した。白馬岳からは、南アルプス、中央アルプス、北アルプス、富士山までもが見えた。それはきわめて雄大な景色であり、山々を見るたびに自分の小ささに気づかされ、人間の活動なんてちっぽけに感じた。小さなことを気にするのはもうやめようと思った。どの山も自分たちを静かに見つめているかのようにそびえていた。

この4日間、体力的にも精神的にも自分はあまり疲れなかった。やはり、直前の歩荷練習のおかげだろうか。歩荷1時間耐久の影響か、きつくても前向きな気持ちを保つことができた。

気象に関して言えば、相当不安だった。一日目にラジオの局を合わせようとしたとき、同じ周波数あたりで局が乱立していて、局を合わせるのに手間取って、最初の方に流れる石垣島と那覇は聞き逃した。それでも3日分の天気図を仕上げる事が出来たのでよかったと思う。そして、何度か熱帯低気圧の影響を受けるんじゃないかと心配になりましたが、高気圧の勢力拡大によってどの日も天気が恵まれた。天に見放されなくて良かった。

また、寝るのは大変だった。一日目は石が痛くて眠ることが出来なかった。二日目も同様だ。しかし三日目には慣れたのか、6時間くらい眠れた。寝ている間しばしば、隣のかたを蹴ってしまったらしい。

やはり今回僕を一番苦しめたのは、体力の問題でもなく、荷物のことでもなく、乗り物酔いである。ゴンドラとバスは大変だ。

ここまで記述したすべてが思い出であるし、まだ書ききれしていないことがたくさんある。これらすべては今までの人生を振り返っても大きなものであるし、今後の人生で振り返っても大きなものであり続ける。だからこの夏山の思い出を大切にしたい。

2年 森 樹

感想文を書くにあたって、少し迷ったが、題は夏山合宿で得た事にしようと思う。私が夏山で得た事を非常に大雑把に表すならば、それは体験と教訓である。しかし、とても残念ではあるが、字数の関係から、教訓を1つ、述べるにとどめようと思う。

私が此度の合宿で得た最も大きな教訓は、絶対に諦めないこと、である。私は今回の合宿の最終日、本当に久しぶりにばてた。実の所、前にばてたのはいつのことだったのか私は覚えていない。もしかしたら、あそこまではばてたのは初めてだったのかもしれない。この感想文を読むであろう先生や先輩方は、ばてるというのがどういう状況なのかよくお分かりだと思うので、その時の私の状況については割愛させていただく。しかし、私の心の機微については詳しく述べていきたいと思う。なぜならこれは感想文だからだ。初め私は

脚の痛さや息の上がり具合から、つらいの三文字を声に出さず繰り返していたが、だんだんと心も参ってきて、登山道を曲がってのぼりが続くのを見るたびに、泣きたいような衝動があふれて、その衝動の感覚も短くなっていき、しまいには涙は流さないものの、半泣きのような状態になってしまった。しかし、それでもまだ、私を苦しめる登り坂は続く。泣きたいような気持ちのまま、無我夢中で足を動かす内、私は自らがこのような格好悪い状態にいることを恥ずかしく感じるようになった。少なくとも、周りに泣きだすような者はいなかったからである。そこで私は気持ちを切り替えることにした。なにくそ、と。そこから、私が心の中で唱える文言がつらい、苦しいからこんちきしょう、に変わった。闘志が湧いてきたのではなく、他の何かしらのパワーに満たされたわけでもない。ただの意地である。しかしそのときから、前に踏み出す足が少し軽くなった。私は確かに、諦めないことを学べたと思う。この感情の推移を、しっかりと心に焼き付けて、生きていきたいと思う。



2年 宮田莉緒
「楽しかった」とか「すごかった」とか「きれいだった」とかみんなそう言うけれど、そんな言葉で表していいものではないと思った。
初めての三泊四日。18キロ弱もの荷物を背負って、歩いて帰ってこられるのかと本気で不安に思っていた。一日目二日目は辛かったものの、まだなんとか景色を見る余裕があった。しかし三日目、雪倉岳を過ぎた辺りから固形物があまり体に入ってこなくなり体力的に限界を迎えた。何かエネルギーになるものを食べなければならぬと分かっていたが、歩いても歩いても休憩時間は来ないし、やっと休憩できたと思っても10分間しかないで結局十分に食べられず、状況は悪くなるばかりだった。最後の道のりはもう何も考えられず、ただ足が勝手に動いているような心地だった。気づいたら、ゴールの朝日小屋が見えていた。その日の夕食は野菜を切って炒めて煮ただけの肉なしビーフシチューだったが、本当においしく、昼食を食べていなかった空腹の体に幸せが沁み渡った。またその夜、テントの三人で真夜中の空を見上げた。あの“満点の星空”は間違いなく今までに見た星空の中で一番だと思う。夏山合宿に来てよかったと心の底から思った瞬間だった。
四日目は体力的にも精神的にも本当に限界が近かった。周りも皆疲れ果てていたがお互い励まし合い、

蓮華温泉までたどり着くことができた。
山を歩いているときや山頂に着いたときの感情はその時にしか感じられないもので詳細に思い出すことはできないから、記憶は美化されて、今ではどうしても安っぽい言葉しか浮かんでこないのだが、私の胸には確かにあの四日間、様々な感情が込み上げたのだ。山は、感動する瞬間より、辛く苦しい時間の方がとてつもなく長い。ただそれでも、生命が美しく輝く山という場所には何度でも訪れたいと思えるほどに、私は山が好きになった。

1年 佐治由洋
今回の山行は今までのものとは違い、2000m級の高所でかつ、三泊四日という長期のものでした。そのため、自分の中では、楽しさよりも、緊張が勝っていました。実際に山に登ってみると、やはり大変なことが多くありました。持っている荷物は重く、気温の変化も激しく、足元の岩場は滑りやすくなっていました。
しかし、どんな困難があっても、そこには仲間がいました。この「仲間」とは、僕たち山岳部員だけではありません。先生方や、家族、さらに、山の上で力強く生きる生物など、多くの人やものの助けがあったのです。今回の山行では、特にこの助けの存在を意識させられました。新型コロナウイルスが感染拡大するという状況の中で先生方や家族が山行を許可してくれたり、いつも以上に大変な山行で先輩方が自分たちのことを気にかけてくれたり、壮大で綺麗な景色に勇気づけられたり、多くの助けを実感しました。また、この山行では、普段では味わえないような体験をすることができました。

普段、僕たちが住んでいる街にはない岩や雪の上を歩いたり、気候状況のためテント内で炊事をしたりしました。これらの体験はこれからの自分にとって、とても大切な宝物になったとともに、山の危険性を感じさせられる機会になりました。山は、多くの貴重な体験のできる、美しい場所でありながら、危険な場所でもあるのです。
これからの山岳部の活動でも、山の危険性を自覚して、良い経験を重ねていこうと思いました。

1年 牛田蔵人
行って良かった。今回の夏山を終えて心からこの言葉が言える。
これは今だから言えることかもしれないが私はこの夏山に行くことに消極的だった。いや、行きたくなかったというほうが正しいかもしれない。今までテントでは浅い眠りしかとれず、そもそも集団行動自体もあまり好きな方ではなかった。けれど、そんな嫌々だった気持ちも景色が圧倒してくれた。本当に感動した。景色も、達成感も、テントで熟睡できるようになったという自分の成長も。

自身の人生の中で最も広大であっただろうこの自然はただ「思い出」として形を残すのではなく、五感を通じ純粹な「感動」として胸に刻み込まれた。
しかし、感動以外にも振り返ってみて新たに抱いた後悔もある。「自分のことで精一杯になっていた」という一人の人間としての問題だ。景色に感動している・長い道のりを辛いと思っている、今思えば自分のことばかりだ。周りの仲間、ましてはこの機会を作ってくれた先生にすら私は意識して目を向けることができていなかった。

何かあった時、いつも手を差し伸べてくれたのは周りの人なのに、いざ周りの人に何かあった時自分は何もできない。これは山という環境に限らない本当に深刻な自身の弱みだ。こんなに濃密な4日間を経てまでも、気付くことしかできなかった。でも気付けて良かった。

これからの日々、周りの人への意識だけではなく自身の体力の向上など、今回の後悔を通じてそれを直す方法はこれからの明確な目標となり、人生の中で大きな教訓になる。山は日々の中で当たり前すぎて気付かないことやその中で欠けてしまったものを訴えかけてくれる鍛錬の場でもあると身をもって実感した。

今回の全てを総じて、本当に多くの学びがあった。そしてその答えは私達がやっている普段の勉強とは違い一つではないと思う。山岳部としての日々を歩む中で一人の人間としての答えをじっくりと考えたい。感謝を胸に歩みたい。これがこれからの私の一つの目標だ。

1年 飯尾瑚由希

山岳部に入るまで、数えるほどしか山に登ったことの無かった私が、部活の山行の中で最も不安を抱いていたのが夏山合宿だった。しかし、いざ出発してみると4日間はあっという間に過ぎていってしまった。だが、その中で得たものは計り知れない。夏山合宿を終えた今、私はこの部活に入ってよかったと強く感じている。

この合宿を思い返すと、楽しかった思い出が次々と浮かんでくる。だが、4日間の歩行は想像以上にきつく、正直何度も帰りたくなった。しかし、休憩の度に先生や先輩が体調を気にかけてくださったり、仲間とお互い励まし合ったりと、弱気になる度に周りの人の温かさに助けられた。4日間歩き通すことが出来たのはこうしたさまざまな支えのおかげだ。しかしその一方で、私は自分のことで精いっぱい、周りがあまり見えていなかった。それどころか、転んで隊を止めてしまうなど、周りに迷惑をかけてしまった部分もたくさんあったと思う。

夏山での4日間は学びや感動の連続だった。山岳部で得たかけがえのない仲間を大切に、これからも多くのことを学んでいきたい。

1年 佐々木叶

この夏山合宿は自分にとって大きな経験になった。もしこの山岳部に入っていなかったら、これからの人生でも直面することはなかっただろう。この合宿で自分が感じたことの一つは、自然のすごさである。辺りには見渡す限り山々が広がっていたり、横を見上げて見れば山頂が見えない程高い山がそびえ立っていたりして、スケールの大きさに圧倒され、感動した。自分はこんなスゴイところに来たのか達成感があった。

他にも何度か雷鳥を観察出来て、良かった。次に山で過ごすことの大変さについて。1番大変だったものは、温度変化だった。標高が高いので日が無ければとても寒くなる。だが逆に日があると遮るものが無いためどんどん暑くなっていった。服装で対応するのが大変だったので、どちらかを耐えていたが大変だった。最後に日頃の生活のありがたさについて。これを1番感じたのはトイレに行った時だ。悪臭がしたり、虫が

飛んでいたとトイレに行くのに少し勇気が必要だった。他にも4日程風呂に入れずにいたのも大変だった。だから今そのありがたみがとても感じられる。

合宿は大変だったが自分の成長につながったと思う。山に登っている最中何度もあきらめそうになったが、先輩や先生の励ましのもとに自分を奮い立たせられた。この合宿で自分の精神力を鍛えられたと思う。先輩とは一年内での中を深めることも出来たと思う。最初は不安だらけの合宿だったが、行って終わったら、案外楽しいものだった。

だがまだ自分は乗り切るのに必死で山の楽しさの半分も味わえていないと思う。これを生かしこれからの期間でせめて八割くらい味わえるよう来年に向け頑張りたい。

1年 分銅亜花音

この3泊4日間はなんとも言い難い、特別な体験となった。印象に残っていることがいくつもある。例えば、山の雄大な景色。4日間で様々な場所を歩いた。ゴツゴツとした岩場、雪道、露出した山の淵、ムシムシとした木々の中・・・。「あ、あとちょっとでテッペンだ!」と思ってもゴールへはまだまだ先であったり、重い荷物を担いで一步一步しか進めないもどかしさなどから何回も心が折れそうになった。でも、周りを見てみると、それはそれは感動的なものだった。無限に思える道でも来た道を振り返ってみると想像以上に進んでいたりして、癖になる感覚だった。

また、日を重ねるごとに筋肉痛やアザができたりして、思うように体が動かず、体力的に辛かった。だが、それ以上に精神面である。場所によってはどれだけ歩いても進んでいる気がしないところがあった。ゴールの見えない道のりは想像以上に辛い。そんな中、2年の先輩方が私の支えとなった。山道を先導したり隊員の体調管理を行ったりなど個人のこと以外にもプラスαこなしている姿はとても印象的だった。加えて、今回の山行にはOBの3人の先輩方が来てくれたのだが、彼らの「人間性」に常々感心した。普段と異なる環境下で私は、いつものように振る舞えなかった。挨拶や、メンバー同士で声をかけることも普段だったら当たり前なのに、しんどくてそれどころではなかった。それらに加えてOBの方達はこまっている隊員のこともすぐに気がついて手助けする場面が度々見受けられて、ほんとうにすごいな、と心から思った。

私は今回の山行を通じて、人の役に立つ人間になりなさい、という顧問の先生が言っていた意味が学べた気がする。この3泊4日は周りの人に頼ってばかりだった。1年生だから・・・と言われればそれまでかもしれないがそれでももつとできたことがあったと思う。どんな環境であっても視野を大きく持って周りをみれる人間でありたい。



行事報告

「C32-2 山行」 日向山 R2.9. 27

白州町の尾白川溪谷から日向山に登ってきました。6 名が前泊キャンプ。当日 4 名が日帰りで合流し 10 名で山頂を目指す。花崗岩の風化した山頂の白州の広場は綺麗でした。山頂の大展望が雲に隠れ残念でしたが、気持ちの良い山行でした。

参加者 10 名：青野(13)高林(25)、山口(25)、鈴木(36)、鈴木貴(48)親子、日帰り山崎(17)、今井(70) 親子、後藤(70)



白砂の日向山山頂にて



日向山山頂から八ヶ岳方面



尾白川溪谷キャンプ場にて

「C32-3 山行」 湖西連峰 R2.12.5 (土)

絶好のハイキング日和の中、老若男女 4 歳から 66 歳の大人 11 名、子供 4 名で登ってきました。梅田親水公園から嵩山、仏岩、ラクダ岩、神石山をピストン。健脚組は雨宿り岩、パラダイスビュー、大岩、神座古墳群、嵩山とひとまわりしてきました。

参加者：高林(25) 夫妻、鈴木(36)、岩倉(48) 親子ほか



梅田峠登山口からスターとしました



まずは嵩山からの展望を満喫



定番ですが仏岩によじ登って浜名湖と太平洋を望む



大岩コース絶景スポット！パラダイスビュー(途中合流した同僚と)

「C33-1 山行」 本宮山 R3.5.30

森町小国神社に集合し、北登会メンバーとその家族7名で本宮山へ行ってきました。

五月晴れで爽やかな風が吹く中、登り約3時間下り約2時間の山行となりました。

木洩れ日がさす林道を行くと頂上手前で展望が開け、磐田浜松市街地、遠州灘を見渡すことができました。

頂上の社に皆さんで御参りをし、無事下山。

マイナスイオンをたっぷり浴びてリフレッシュすることができました。参加者7名:山崎(17)、高林(25)夫妻、山本(28)、鈴木貴(48)、岩倉(48)親子 (岩倉 記)



本宮山山頂にて



遠州の山並み展望もありました

行事案内

「C33-2 山行」 大川入山(1908m)

長野県下伊那郡阿智村浪合治部坂高原スキー場から大川入山を目指します。

日程：R3. 10. 24(日)

※希望者は前日平谷村付近宿泊またはキャンプ泊

会費：宿泊費1万円程度、交通費は車ごとに実費精算

集合：適宜調整し自家用車乗合せて行きます

- ① 前日 8:00 サンスト浜北P コスモ石油東
- ② 前日 14:00 スヤビルドサービス (西区西山町 1830-2)
- ③ 当日現地 7:30 治部坂高原スキー場駐車場



南アルプス、中央アルプスが望めます

「家族園遊会」 ※差入大歓迎です！！

日程：R3. 11. 6 (土) 10:00～

会場：須山建設海の家 (北区三ヶ日町都筑 926)
佐久米海岸沿い

会費：大人2000円/人程度

交通：天浜線東都筑駅下車 800m15分

恒例の大鍋、炭焼き、焼き芋秋の味覚を堪能下さい！

水辺遊びやサイクリング(持参)が楽しめます

希望者は宿泊やキャンプも可能です

「C33-3 山行」 湖西連峰

日程：R3. 12. 4 (土) 9:30 梅田親水公園P

※天気良ければ、浜名湖越の富士山が拝めます。

※友人家族参加大歓迎

※神石山で温かいスープを用意します！

「現役サポート」 湖西連峰

日程：R4. 1. 15(土)

集合：例年 8:30 頃 梅田公園

北高山岳部が競技力向上のため、歩荷競走で入山します。梅田峠から多米峠を往復しますので各チェックポイントで保安要員担当します。協力をお願いします。



「総会」

日程:R4. 2. 5 (土) 18:30～ 会場:浜松駅界限 会費:未定

※新型コロナ感染状況によっては、中止または延期にすることがあります。最新情報はHP、FB等で確認を

※返信はがきは概ね3週間前までに投函して下さい。

①大川入山 10/2 締切 ②園遊会 10/15 締切

③湖西連峰 11/13 締切 ④総会 1/15 締切

出欠にかかわらず、近況報告を兼ね必ず返信願います。

行事関係問合せ先

事務局：松山 053-474-9267 (TEL&FAX)

tetorunamoko@yahoo.co.jp

事業担当：鈴木 katsumi_hamakita@yahoo.co.jp

090-7698-1144 (携帯)

今後もC山行は概ね下記の日程で予定していきたいと思
います。春の山行案内は会報発行に間に合わないので、E-mail、
HPやF Bなどで周知させていただきます。興味のある方は
事務局にご一報ください。希望者には葉書等で連絡させて頂
きます。

春 4月か5月第3土日 県内または東海甲信越

秋 10月第3～4土日

冬 12月第1土曜日 湖西連峰

北登会関係計報(R2 秋以降事務局把握分)

後藤多喜男 様 (6回) R3. 4

ご冥福をお祈りします。

事務局から報告(北高部活動後援会関係ほか)

3/25 35期第1回役員会(5名)

4/7 年会費納入依頼、行事案内発送 333通

4/21 部活動後援会常任理事会、理事会

5/17 部活動後援会総会(欠席委任状)

部活動後援会懇親会 (当面延期)

＊北高部活動後援会にOB会費として

毎年 20,000円を納めております。

ともしび通信

2020年秋以降の北登会フェイスブックなどから
転載させて頂きました。

鈴木克巳 (36回) 信越トレイル

今回はセクション2 沼の原湿原から希望湖、毛
無山、涌井を歩きました。後半雨に降られまし
たが、途中の涌井新池は小さな溜池ですが、東
山魁夷の御射鹿池の佇まいでした。帰路は飯
山市内の田中屋酒造で水尾を試飲して来まし
た。

2020. 10. 24 投稿



ブナの紅葉を楽しみながらゆっくりトレック



涌井新池は小さなため池ですが静かでいい感じ

鈴木克巳 (36回) 子育て世代交流イベント③

10/31-11/1に秋葉神社下社前キャンプ場で焚火
体験キャンプをして来ました。子供たちは焚き火の
予習もしっかりやってきて実践していました。

ちょっとやけどして危険性を体感したり、直火の
後始末の大変さも解ってくれたかな? 20201106 投稿



事前に調べて設計図を作成 大人も子供も火遊びは大好き!

昨今のキャンプブームで、大勢のキャンパーが
いました。アウトドアでも水場やトイレは要注意で
すね。コロナ感染リスクが急増し、11/8の家族園遊
会が急きょ中止になってしまったので、プレ家族園
遊会でした。

栗山(旧姓平良)章子 (49回) 湖西連峰

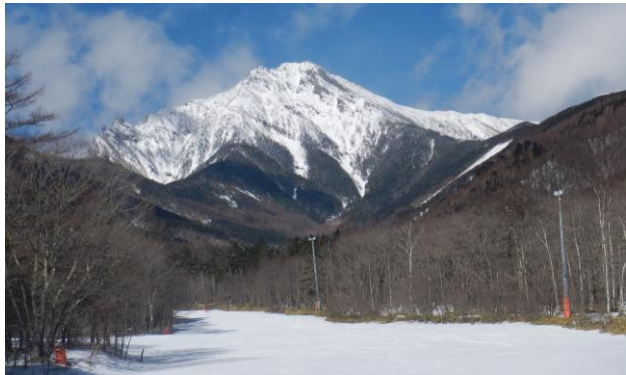
C32-3に行けなかったのが、大晦日に9歳から5歳
の子供達を連れ、湖西連峰ハイキングに行ってきまし
た。快晴で景色も良く、最高でした。下山した際には
粉雪も舞っていて、手が悴んで寒かったので、軍手や
頂上で温かいものが食べれる装備を持っていけば良か
ったです。



仏岩経由神石山の往復2時間半のコースでした。
子供達、私と一緒に下りを駆け下りる、なかなかの
強者たちです。20201231 投稿

山本 (28回) **鈴木克** (36回) 清里アルペンスキー

サンメドウズ清里スキー場にて。正面に富士山、右
に南アルプス、振り返ると八ヶ岳赤岳が迫ってきます。
三密避けてゲレンデ脇でピクニックランチ!!
スキー体験いかがですか?トレック参加も可能!

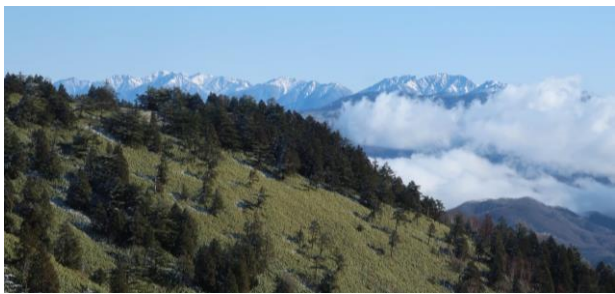


山口 靖 (26 回)

定年退職後の最初の山行は、中津川の東の富士見台（1739 m）、横川山（1620 m）、南沢山（1564 m）で足慣らし。恵那山と中央アルプスの間の地味な山々だが、展望は素晴らしく、笹原の中の登山道を歩くのは気持ちが良い。今日は快晴だったのに誰にも会わなかった。昨夜は雪だったらしい。（2021. 4. 7 投稿）



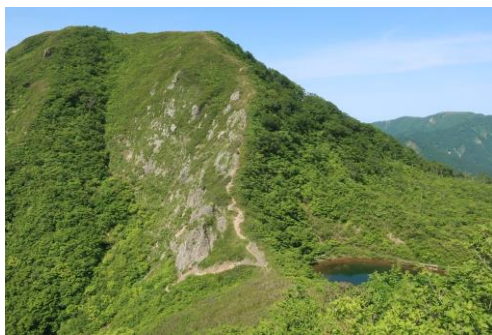
富士見台から見た朝の恵那山



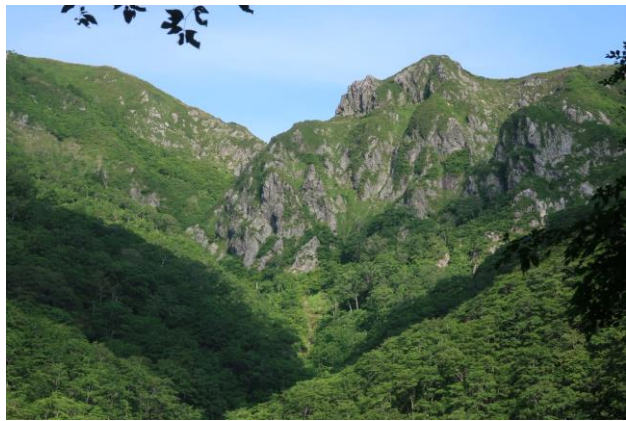
富士見台から中央アルプスを望む

山口 靖 (26 回)

梅雨の晴れ間に、龍神伝説や泉鏡花の戯曲でも有名な夜叉ヶ池に行ってきました。岐阜・福井県境の分水嶺の稜線付近の標高約 1,100 m にあります。登山口まで名古屋から車で約 2 時間半、さらに池まで 1 時間半の登り。普通の観光というよりハイキングか登山の範疇に入ります。朝 4 時半に自宅を出発したおかげで池では誰にも会わず、神秘的な池を一人静かに楽しめました。実は、さらに奥の三周ヶ岳を目指したのですが、藪が酷くて途中で撤退しました。（2021. 6. 22 投稿）



東側から見た夜叉ヶ池。分水嶺付近の鞍部に位置しているのが分かる。岐阜県と福井県の間県境争いが、まだ続いているらしい。稜線の南東側（岐阜県側）斜面に樹が少ないのは、冬期、北西からの季節風で南東側に雪庇が張り出し、その崩壊による雪崩のためだろう。



鶴見敏明 (25 回) 孫とハイキング

6 歳年長と 8 歳小 3 の孫 2 人、息子と久しぶりのハイキング！今回は奥山高原から富幕山 563m。

前回尉ヶ峰よりコースは短いけれど前は 11 月で今回は 7 月半ばで暑い暑い！！梅雨の晴れ間を元気いっぱい歩いてきました。（2021. 7. 11 投稿）



若者は速い速い

恐竜の雲、見つけ！！

佐々木哲也 (54 回)

流しそうめんがしたいー！と長男さん。

ながしちょーめんちたい！と次男さん。

せっかくなので挑戦してみました。初めてでしたが竹って色々なことができて楽しかったです。



即席の流し素麺マシンと竹の器。ご飯は少し緩く炊けました。採ったばかりの竹からも水がでるので、少な目でもいいのかも。（2021. 7. 11 投稿）

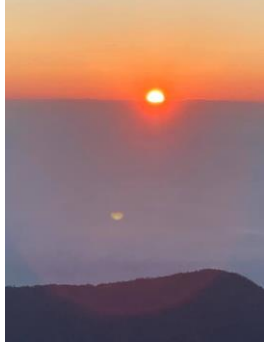
鶴見敏明 (25 回)

2021 夏山合宿燕岳 1 日目

2 年ぶりの夏山合宿はかろうじて予約ができた燕山荘。1 泊 2 食で 13,000 円と値段も高い！それでも久しぶりの北アルプスは心地良かったな。（2021. 8. 4 投稿）



燕山荘と燕岳



燕岳は北アルプスの女王 昇る朝日に感謝
2021 夏山合宿 2 日目

北アルプスの山小屋が軒並み満室の中、かろうじて予約がとれた燕山荘は予想以上に素晴らしい山小屋でした。

小屋内もトイレも綺麗だし、夕食後のオーナー 赤沼健至さんの自然を愛する話とアルペンホルンの演奏に感動！！部屋の窓からコマクサが見えたのもうれしい驚きでした



槍穂高連峰のモルゲンロート



メガネ岩



イルカ岩

青野ダイチ (13 回)

8 月 1 日から 6 日まで、岡大山岳部の先輩二人とその友人女性 2 人の 5 名で剣岳に行った来ました。といっても長次郎谷から剣岳登頂はかなわず、山岳部後輩の坂本心平君の経営する真砂沢ロッジに 3 泊し、二股や梯子段乗越近くをハイキングする旅でした。アラウンド 80 歳の集団ですので、コースタイムの 2～3 倍かけての山旅です。(8.8 投稿)



真砂沢の朝焼け



6 日朝の剣本峰



剣沢小屋から見た剣岳本峰、迫力満点です。



平蔵谷入口から剣岳頂上付近を望む¹

¹

北高山岳部サポート情報

北登会では3人の顧問で40名の大所帯になった北高山岳部支援を重点的に取り組んでいます。

装備の充実や山行、合宿のサポート参加、差入など重点的に行っています。

●9/12-13 月例妙高合宿同行取材

取材班が勘違いで1日早く行ってしまい、入れ替わりになってしまいました。鈴木（36回）



天狗の庭から火打山を望む



笹ヶ峰登山口で北高山岳部の到着を待ち見送り

●11/28 月例山行に同行取材 鈴木（36回）

愛知県民の森宇連山を登ってきました。北登会から差し入れもしっかりしてきました。暖かくて登りはTシャツ1枚で暑いくらいでした。紅葉もピークを過ぎていましたが、紅葉のじゅうたんが綺麗でした。

コロナ感染拡大につきギリギリ県外山行でした。



愛知県民の森の広場では紅葉が見ごろでした



南尾根コースは岩尾根でアルペンムードです
現役高校生のハイペースに登りも下りも置いて行かれ、かつ全身筋肉痛の55歳取材クルーでした。

●山岳技術図書寄贈

4/21に部活動後援会理事会で北校を訪問した際、山岳部の活動を見てきました。部室を見させていただいたところ、案外登山の技術マニュアルが少ないことを知りました。女子の部室は見えてないですが、少なくとも男子の部室を見る限り少ないのがわかりました。ということで7/1に北登会からヤマケイの登山技術全書を4冊寄贈しました。

また、女子部室も本がなく同じように欲しいということで、特製虫よけスプレーと同じ本を1セット追加し贈呈しました。（8/31）



●秋葉山歩荷訓練サポート参加 7/21-22

例年は富士山で高所順応訓練ですが、コロナ感染拡大を受けて、秋葉山で幕営、歩荷訓練となりました。猛暑の中熱中症対策のため、堀（35回）と鈴木克（36回）でサポート参加してきました。2日連続の秋葉山ピストン登山は老体には筋肉の限界まで応えました。



●夏山合宿サポート

今年の夏山合宿は8/2-8/5(予備日8/6)北アルプス白馬岳。全員参加すれば1年生17名、2年生20名、顧問3名、総勢40名の大所帯。

コロナ感染拡大によっては、県外遠征が制限される可能性がありましたが、校長の取り計らいで計画通り実施。

北登会から差し入れもしておきました。塩分補給タブレットとアミノ酸サプリ、経口補水液、急速保冷パック等です。大学生のOBも3名サポート参加してくれました。天気にも恵まれ、けが人、病人もなく合宿も無事成功でした。



佐々木先生とサポートOB3名

第35期会計報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

収入の部

入会金	0
年会費	315,000
雑収入	163
前期繰越金	629,808
収入合計	944,971

支出の部

総会費	0
会議費	0
通信費	81,171
事務備品費	44,103
渉外費	20,000
会報発行費	27,624
その他事業費	35,178
山岳用具購入費	149,050
遭難対策基金積立	0
予備費	0
支出合計	357,126
次期繰越金	587,845

遭難対策基金積立累計	3,420,000
------------	-----------

第35期事業報告（令和2年度）

1. 現役生との交流、サポート
部活動後援会（会費納）
クライミングウオール補修費補助
月例山行夏山合宿等差し入れ（サブリメントなど）
歩荷競走保安要員 1/16 湖西連峰 コロナ中止
2. 会報の発行 夏号
夏号 600 部印刷（9/10 発送 458 通+北高 90 部）
3. C山行
C32-1 R2.5.24 愛知県民の森 2 名参加
C32-2 R2.9.26-27 日向山 10 名参加
C32-3 R2.12.5 湖西連峰 15 名参加
4. 家族園遊会
R1.11.10（日）都田 伊藤みかん園 コロナ中止
5. 新年会
R3.2.6（土） コロナ中止
6. 遭難対策基金積立
0 円 累計 3,420,000 円

第36期北登会役員（令和3年度）

顧問	山崎正敏（17）
会長	高林 宏（25）
副会長	山本寿彦（28） 鈴木克巳（36）
会計監事	阿部邦彦（12） 山崎正敏（17）
会計	松山英達（20） 事務局兼務
常任幹事	大谷一雄(21)、鶴見敏明（25）、 深谷直久(41)、北嶋敏明(43)、 鈴木貴晴(48)、大東たかし(50)
HP管理	鈴木貴晴(48)

第36期事業計画（令和3年度）

1. 現役生との交流、サポート
部活動後援会
月例山行、夏山合宿支援（差入れサポート参加）ほか
山岳技術書、医薬品等寄贈
1/15 湖西連峰歩荷競走保安要員派遣
2. 会報の発行
秋号 9 月上旬発行（600 部印刷予定）会員+生徒等へ配布
3. C山行
C33-1 5/30(日)本宮山 511m(森町小國神社北)
C33-2 10/24(日)大川入山 1908m（長野県阿智村浪合）
C33-3 12/4(土)湖西連峰（梅田峠～大岩コースなど）
4. 家族園遊会
11/6（土）須山建設海の家（三ヶ日町都筑 926）
5. 若手会員交流イベント(随時開催)
キャンプ（焚き火）、カヌー、沢遊び、サイクリング、
スキー、スノーシュートレッキングなど各種体験
6. 総会
2/5(土) 会場未定
7. 遭難対策基金積立
積立累計金額を維持

編集後記 会報編集担当 鈴木克巳（36回）

会報の内容はいかがでしたでしょうか？

北登会会計持続のため R2 年度から年 1 回の発行と
させていただきました。

H15.9 発行の 17 号から編集を担当させて頂いており、
H24.5 発行の 26 号から春秋の年 2 回発行として紙面を
増やし、現役山岳部情報や、OB 会員の近況報告などを
可能な限りお届けさせて頂きました。

今号もともしび通信として SNS 投稿などからの転用を
多用させて頂いております。同じ会員の情報に偏りが
ちですが、元気な OB の近況をお届けできたかと思います。

今年の北登会の 2 本柱は、現役支援と若手 OB 会員との
交流です。現役山岳部は 1.2 年生合計 37 名（うち女子 12
名）と大所帯で、正副顧問 3 名では大変な状況です。OB
会としても可能な限り支援をしていきたいと考えています。

また北登会の懸案事項である世代交代です。子育て世代
が家族で気軽に参加できるような行事を企画しますので、
ぜひ若手の OB 会員の参加をお願いします。

新型コロナ感染拡大で夏休みのカヌー体験が中止にな
ってしまいましたが、ひと段落したら、サイクリング、
焚き火キャンプ、スノーシュー体験などを考えています。
ぜひ参加ください。

編集発行 北登会事務局 松山（20 回） 〒432-8004 浜松市中区文丘町 29-29 TEL・FAX 053-474-9267 令和3年9月 600 部発行 通算第 43 号
